

社長令嬢・被虐のバカンス

【野外調教編】

昭和猟奇譚
女犯仕置人哲夫

作画・うさぎね工房

Nightmare Express—悪夢の宅配便

時は昭和末期…
初夏の香りが
漂い始めた季節。

都内某所に大企業を
一代で築き上げた
社長の豪邸があった。

…今回の物語は
ここから始まる。

…お嬢様、
どさうへ？

伊豆の別荘…
付き添いは
いらさないわ。

一週間ぐらい
一人でのんびり
過すつもりよ。

倉崎綾乃(23歳)
…その大企業の
社長令嬢である。

…心配
ないわ。

…お気を付けて
行って
らういませ。

綾乃は社長の一人娘として
何不自由のない贅沢三昧な
暮らしを過ごしていた…

溺愛する娘に社長は
高級マンションや、
スポーツ外車などを
望むままに与えてる。

この避暑地の奥深くにも
綾乃専用と言ってもよい、
別荘が建てられていた…

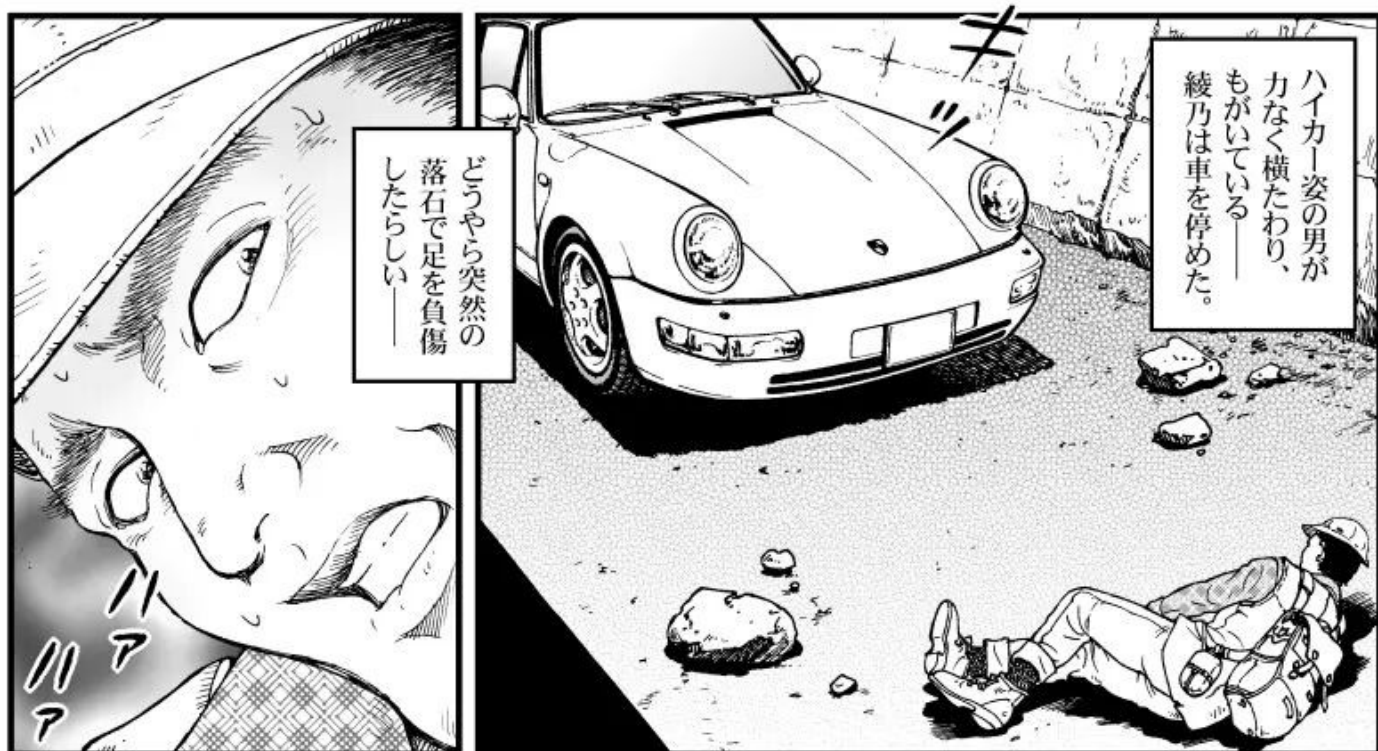
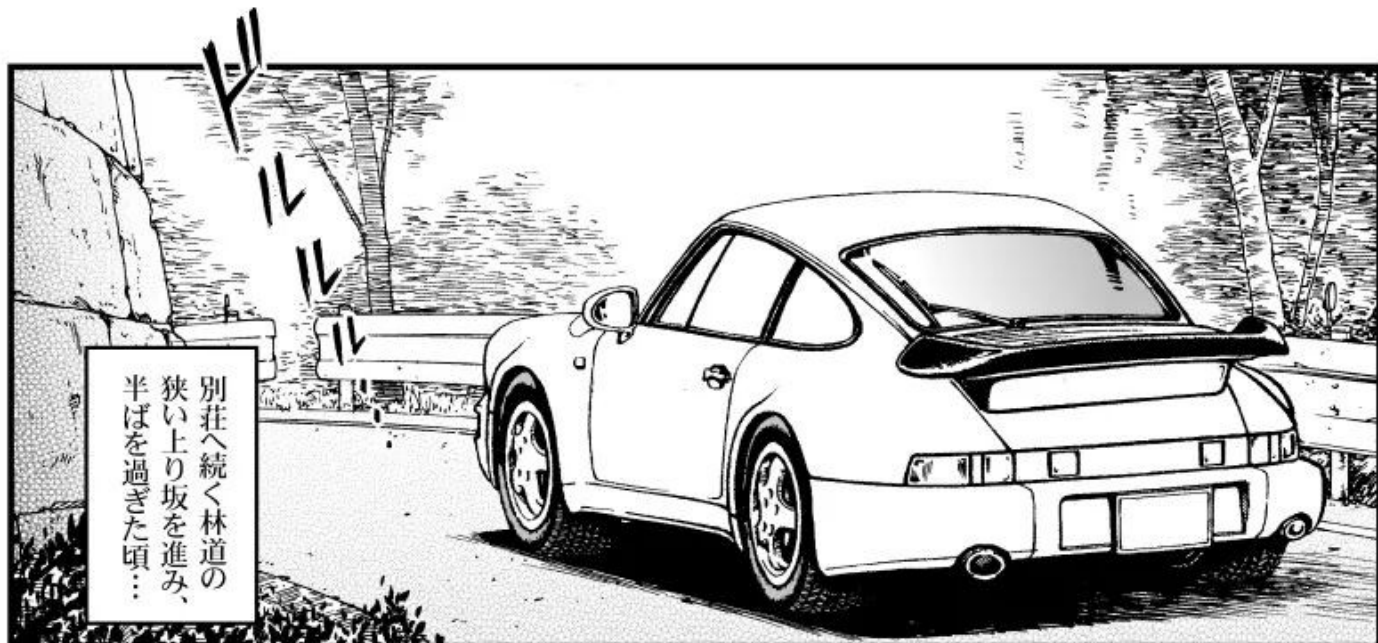
毎年夏になると綾乃は
この別荘で一人だけの
気ままな余暇を愉しむ
ことにしている――

別荘にはあらかじめ
必要な物資が用意され、
管理人や使用人にも
休暇を出してあった。

高級別荘地の一帯に
近づくとも交通量も
まばらとなり快適な
ドライブとなる…

やがて車は別荘のある
山間の側道へと
分け入って行った。





携帯電話で簡単に
救急車が呼べる
時代ではない――

……大丈夫
ですか？

あ、
ありがとう。
助かった……

綾乃は弱った
その初老の男を
車で運んでやる
ことにした。

ガ
ッ
ッ
ッ



ケガ人だろうが
年寄りだろうが
……

見ず知らずの男を
簡単に受け入れる
もんじゃないぜ！

親切にしてくれた
お礼にいいことを
教えてあげよう……



!!









や、や、

な、何
するの!?



思ったよりも
ジャジャ馬な
御令嬢だな...

コイツは調教
しがいがある
...ってもんだ。

きやあ
ああ—っ



ふふふ...
いい肉つき
じゃなから。



ヒィッ—







男は容赦なく
綾乃の着衣を
引き裂く――

やつ、
やめてー！

裸に剥かれる恥辱と
襲い来る排泄感が、
同時に綾乃を責める。

…ふふふ、
そんなに軀を
くねらせると
ケガするぜ。

ンンン
ッ

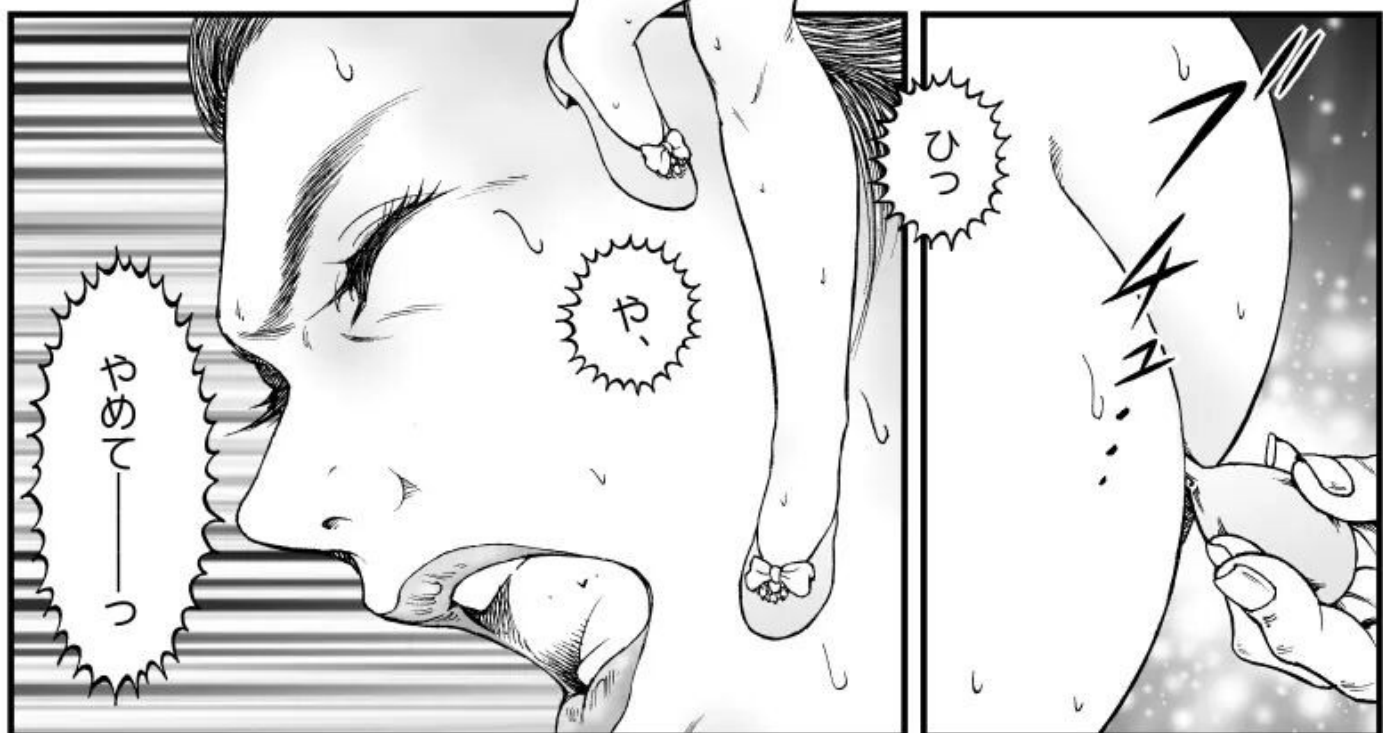
ウウッ

悶え苦しみ呻く綾乃の
表情を楽しみながら、
男は純白のスリッパも
切り裂き落して行く…

十分…二十分…
果たしてどの位の
時間が経過したのか。

くじく
……ッ

…耐え続ける
苦しみの中で、
時間の感覚が
失われている。





だ、ダメーッ！

も、もう……で……っ

ああーっ

ついに自尊心を崩壊させる限界の波が綾乃を襲った。

小便まで大量に
溜め込んでたか

んん
—っ

令嬢だろうが
売女だろうが、
出すモノは
変らねえなあ。

そのうち、
残らず全部
絞り出したな。

…随分派手に
吹き出させて
くれたもんだ。

腹奥から全てを
絞り出しきるまで、
長い時間をかけて
綾乃は呻き続けた。

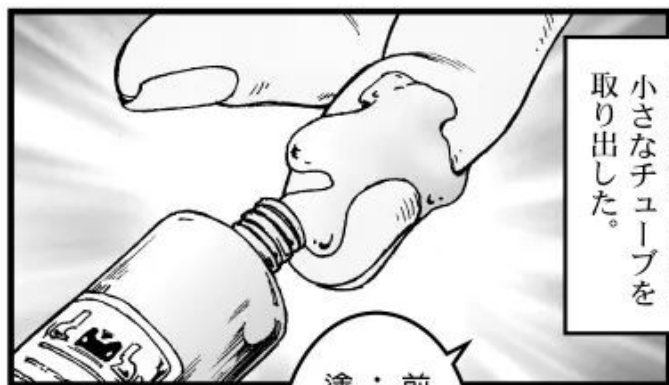
んん…

うう…っ

ガ
ク
ッ
ハ
ハ
ハ









クリームを塗り
込まれた割れ目に、
荒縄がヌルヌルと
喰いこんで来る…

どうした？
——早くも
ムズムズして
来たかな？

だが、これから
もっと強烈に
効いてくるぜ…

ン
ン
ッ

クウ…ッ

グ
ッ

ハ
ッ

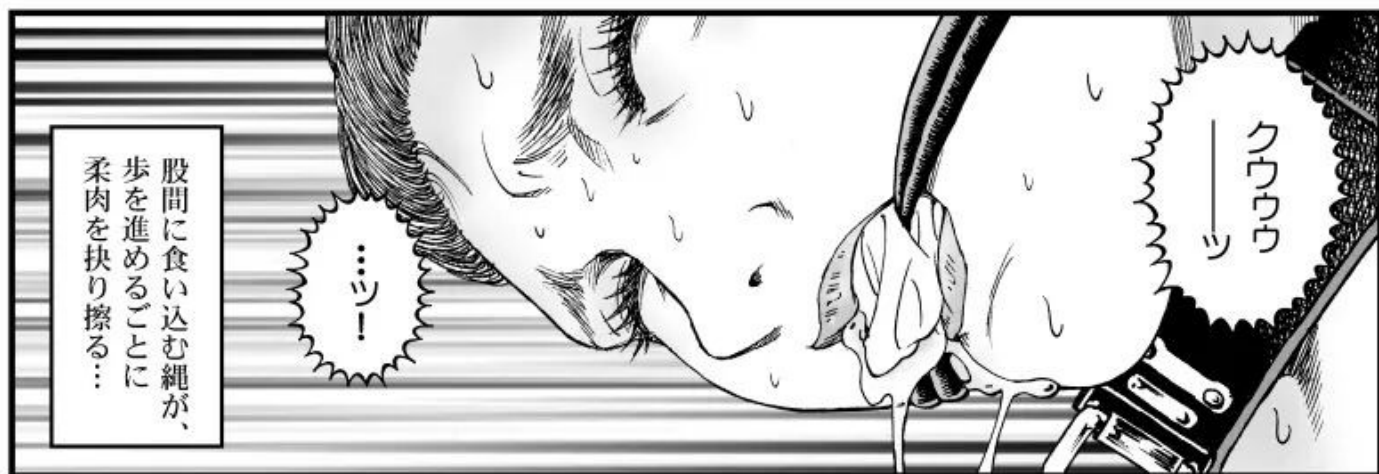
さあ、車の
所まで散歩と
洒落込もうぜ。

——ほら、
さっさと
歩くんた。

グ…
ン
ン

男に首縄を曳かれ
足場の悪い獣道を
よろけながら進む
綾乃——

ハ
ッ
ハ
ッ







こいつで少々
飼ひ馴らして
おくとするか。

ズッ

どんな女も
従順になる
代物だぜ。

男は綾乃に
アナル責めの
金属フックを
ねじ込んだ！

ハイッ

ズッ
ズッ

ひっ

フックの紐を
引き絞っては
揺さぶる男！

や、やめて、
外してえっ

んん
んん
っ

いやあ——っ！

な、なんでも
言ひつてきく
から許して！

ズッ
ズッ

グッ



とある『依頼人』に
あんたを無茶苦茶に
してくれ——と、
頼まれたツテだね。

それが俺の
仕事なんだ。

どついた風で
『無茶苦茶』に
するかは、俺の
気分次第だぜ……

……そういう
『契約』に
なっている。

気に入れて
奉仕した方が
身の為だな。

……ぐっ、
むぐぐ

裏に、この襲撃を
計画した謎の人物が
いると匂わせる男……

尻穴が裂ける
前にさっさと
俺様をイかせ
るんだな——

フックの紐を
手綱のように
操り引く男……

……なんだ、
全然ダメ
じゃないか。

……んん
……っ！

……むっ、
……ソ——ッ

ここからが
本番だぜ…

自分でブラを
外して乳を
出して見せろ。

!!

ぐずぐずしていると、
またフック責めを
食らわせるぞ…!!

抵抗する気力も
無くしたように
綾乃は男の指図に
従って行く――

ふん――
悪くない
乳形だな。

…い
いやっ!

声を出すな。
これを口に
啜えておけ。

うぐ…っ



…絶叫と共に
ブラが落ちた。

落したな？

…約束通り、
後ろの穴に
突っ込むぜ。

男は怒張を
引き抜くと、
そのまま後門に
押し込んで行く。

や、やめ
て—っ

ひひひひ

押し広げられる苦痛と、
内臓を掻き回される
おぞましい感触に、
呻きと悲鳴が上がった。

んんぐ
っ

あ…
あめっ

い、いやっ、
だめっ、あ
ああああ
っ！

放出を終えると、
男はゆっくりと
肉棒を引き抜く。

ふふ…尻の中に
たつぷりと
注がれた気分は
どうかかな？

コレくらいじゃ
全然満足して
ないって顔だな
——クククッ

もう一度
コイツを
使うか…

!!

中身は全部
出した後
だからな…

も、もう
やめて…

く
……
く
う

洩らしても
出るのは
ザーメン
だけだろう。

む…う
う…う
う…う

お前の尻穴で
汚れた肉棒だ。

…しゃぶって
キレイにしろ。

んん…っ



…男は綾乃を車の
助手席に押し込み、
縛り上げてしまう。

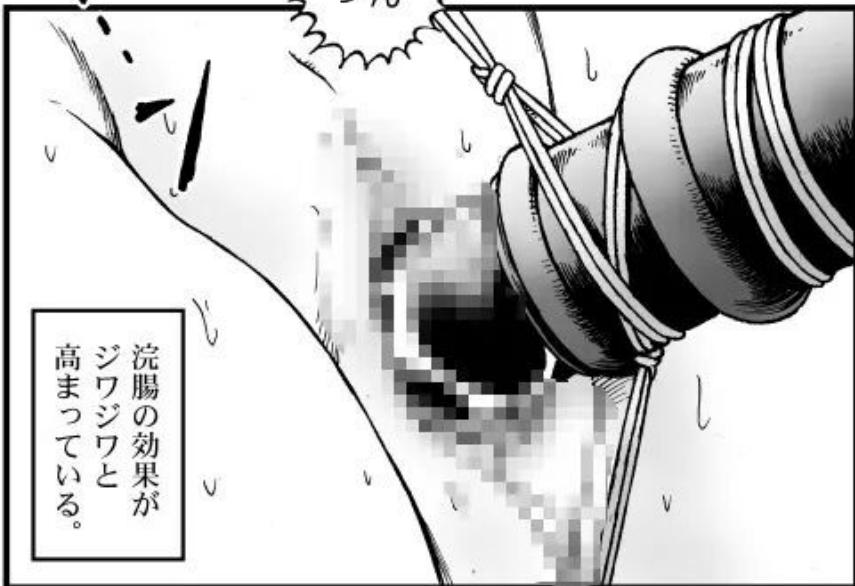


そして黒光りする
パイプを突っ込み
紐で固定する……

あんな
っ



必死にアヌスを
締め上げれば、
パイプを自ら
啜え込む動きに。



浣腸の効果が
ジワジワと
高まっている。



男はパイプの
スイッチを
最強にする…



綾乃に嘲笑を
浴びせながら
車をゆっくり
走らせる男…



フ

